

龍力 株式会社本田商店

理念は、「よろこんでもらえるよろこび」
醸造に於いては、「米の酒は米の味」

龍力大吟醸米のささやきを始め、ドラゴンシリーズなど醸造しています。酒造好適米100%で醸造し、山田錦を土壌から追求する龍力テロワールに取り組んでいます。日本酒を造る際にできる、米粉、酒粕を使用した焼酎も製造。近年では、食品廃棄物ゼロを達成しました。

商号	龍力
本社	〒671-1226 姫路市網干区高田361-1
創業年	1921年(大正10年)10月1日
設立年	1945年(昭和20年)2月1日
資本金	1,500万円
従業員数	30人
事業内容	清酒・焼酎製造販売



昭和30年代の龍力



兵庫県特A地区山田錦栽培田



歴代全国新酒鑑評会表彰状



龍力醸造元母屋



純米大吟醸 秋津

元々は小売酒屋!?

本田家は、古くは播州杜氏(ばんしゅうとうじ)の総取締役として酒造りに従事しており、上余部で酒造りをしておりました。龍力の初代本田新二は、造り酒屋の次男として誕生しました。実家のお酒を売るために、網干駅前にて、小売酒屋を始めました。お酒を売る商売をする傍ら、糸井の庄屋さんのお世話になり、米蔵の管理などもさせていただいていました。

管理をしっかりしていたのが認められたのか、庄屋の旦那さんに気に入られ、「お米貸してあげるから酒造らないか?」とお声がけいただき、酒造りを始める決意をしました。そのような時に、龍野のカネキ醤油さんより酒造権利を譲ってもらい、酒造りを行うようになりました。小売酒屋から酒蔵になった珍しい蔵元です。

変革期。大吟醸酒への挑戦

1970年初頭は、問屋としてキンビールを売りつつ、酒は、大手蔵元の下請けをしておりました。そのまま問屋業と下請けだけでは、時代の波に飲まれ存在していなかったと思います。4代目本田眞一郎が、入社をし、自分の所の酒を自分が売っていないことに疑問を持ち、1979年に当時マニアックだった大吟醸酒に取り組みはじめました。お燗酒が中心の時代に、冷やして飲むという新しい価値観に取り組んだのです。当時は取引先には全く相手にされなかったそうです。これは美味しい酒であると信じ、思いを共にする全国の酒造家と共に吟醸酒協会(初代理事長龍力3代目本田武義)を立ち上げました。そうすると、東京の百貨店のバイヤーの目に留まり、バブル景気もあり、大吟醸酒は瞬く間に人気となりました。大吟醸の人气が高まり、より良いお米をと考え、日本初の山田錦の農法指定の契約栽培を行うなど品質向上にも力を入れてきました。3代目、4代目の考え方のMIX。そしてリレーのようにバトンを繋いでいく挑戦が今の龍力の形になっています。

これからの展望

2021年10月。龍力は創業100年を迎えました。101年目の新しいスタートをきり、新体制になりました。初代から続く「新しい価値観への挑戦」のバトンを引き継ぎます。まずは、土壌を追究し、個性を引き出す、「山田錦テロワール」の確立。そして、日本酒に熟成の未来をと考え、「熟成古酒」に取り組んで参ります。また、独自で交配した新酒米の開発も近々ご報告できると思います。龍力の挑戦はまだ続きます。



左:4代目蔵元 本田眞一郎
右:5代目蔵元 本田龍祐



TEAM龍力始動

Since 1921